

Vasundharā と Vasudhārā

SHAKYA Sudan

はじめに

Vasudhārā は、諸々の仏教文献において財宝の女尊であるとされている。そして今日のネパールやチベット仏教において Vasudhārā は、人々を貧困から解放し、福德財宝を与える女尊として広く浸透している。もともとはヒンドゥー教の女尊として登場したが、その姿（手の数や持ち物等）を変えつつ、仏教に取り入れられたと言われている¹⁾。また、ジャイナ教徒の間でも人びとに富や財宝の取得という現世利益をもたらす女尊として知られており、その陀羅尼も流布している²⁾。

一方で、文献によっては Vasudhārā ではなく Vasundharā という女尊が存在することが知られている。この Vasundharā は、大地・財宝の女尊として解釈されているが、しばしば Vasudhārā と混同される。本稿では、この Vasundharā と Vasudhārā の両者の性質を考察することで、その区別を明確にしたい。

Vasundharā と Vasudhārā について

1. Vasundharā/ Vasudhārā

Vasundharā とは 'vasu' と 'dhara' から構成される限定複合語である。'vasu' は大地のことであり、'dhara' は dhṛ (*tib.* ḥdsin pa 保持する、支える) という語根に由来する³⁾。つまり Vasundharā は「大地を保持するもの(女性形)」と理解される。チベット語では、これに対して① 'saḥi lha mo' (大地の女尊) または ② 'nor⁴⁾ ḥdsin ma' (財宝を保持する女尊) という二種の訳語が用いられている。

次に、文献において Vasundharā がどのように扱われているか例をあげて考察する。密教において儀礼で用いるマンダラを描く前には、土地を選定し、それを浄化し、結界を張り、聖なる空間にするというプロセスが必要とされる。その前段階として、阿闍梨が大地の女尊を観想し、その女尊に対してマンダラを描くために土地を使用する許可を請願する。大地の女尊から許可を得てから初めて、土地を加持し、マンダラが描かれるのである。この場合の「大地の女尊」が Vasundharā⁵⁾ であるか否かをまず考察してみよう。

『大日経』の「具縁品」は周知の如く阿闍梨・弟子の資格やマンダラ作成の作法等を説く。ここでもマンダラを描く前に大地の女尊を勧請し、土地使用の許可を得るのであるが、その際に「警発地神偈」と呼ばれる頌が唱えられる⁶⁾。そして、“*saḥi lha mo la sbran paHi tshigs su bcad pa*” (大地の女尊を呼び込む頌)はそのチベット語訳である。仏伝において、釈迦が悪魔を征服し悟りを得た、いわゆる「降魔成道」を証明するのが大地の女尊であり、マンダラ儀軌においても、阿闍梨はこれからのマンダラ作成を釈尊の悟りにあてはめ、それを大地の女尊に伝えているのであるという⁷⁾。この女尊が *Prthivī* であることから、『大日経』「具縁品」においては大地の女尊を *Vasundharā* としては解釈していないと思われる。

また、10世紀頃活躍した学僧 *Mañjuśrīkīrti* 著『法界語自在マンダラ儀軌』(Toh 2589) が説く「マンダラ儀軌」でも、マンダラを描く前に「大地の女尊」を観想し、「警発地神偈」を三回唱えるべきであるという。この場合の「大地の女尊」も *Prthivī* であろうと考えられる。この儀軌では *Paṃ* 字より生じ、手に瓶を持ち、あらゆる装身具を付けた「大地の女尊」が観想される⁸⁾。チベット語ではその女尊に対して ‘*saḥi lha mo*’ を当てている点から、*Vasundharā* の訳語の可能性も否定できない。しかし、ここでは *Paṃ* 字より大地の女尊を観想するため、その女尊は *Prthivī* 女尊であると考えることが妥当であろう。後に述べるように、*Vasundharā* は *Vaṃ* 字より生ずる。すなわち、中期密教系のマンダラ儀軌においては、「大地の女尊」として *Vasundharā* は登場しないといえる。

次に、*Jñānapāda* 流に所属するマンダラ儀軌である *Dipaṃkarabhadra* 著 *Guhyasamājamaṇḍalavidhi* は後期密教のマンダラ儀軌の基本テキストの一つとされており、『四百五十頌』という別名を持つ。ここではマンダラの作成法から灌頂次第まで扱うが、その第148頌に *Vasundharā* に関する記述が見られる⁹⁾。この頌では、‘*vasundharā*’ に対応するチベット語訳が ‘*sa*’ (大地) となっている。このように、『四百五十頌』にも ‘*vasundharā*’ は登場するが、尊名としては扱われず、単に大地としてのみ理解されているようである。さらに、*Ratnākaraśānti* と *Vitapāda* による『四百五十頌』の註釈においてもそれは女尊としての *Vasundharā* かどうか明確ではない。いずれにしても両者ともこの頌を「土地浄化儀礼」(*saḥi lha mo cho ga*) として理解している¹⁰⁾。また、『四百五十頌』と並んで重視されている *Nāgabodhi* に帰せられる聖者流のマンダラ儀軌『秘密集会曼荼羅儀軌二十』(以下 *Vimśatavidhi*) でもマンダラを描く前に、土地借用の許可のため、大地の女尊に請願することが説かれるが、その女尊は *Prthivī* である¹¹⁾。

Vajrāvalī (VA, Toh 3140) は 11-12 世紀頃に活躍した密教学僧 Abhayākara Gupta の主著であり、上述の『四百五十頌』や *Vimśatīvidhī* の影響を受けたと言われている。その第 9 章は *Vasundharādhivāsanavidhī* と称され、上述した諸文献にも見られる内容、すなわちマンダラを描く土地の借用の許可を得るために阿闍梨が大地の女尊を観想する儀軌が説かれている。この場合の女尊は *Vam* 字から生じる *Vasundharā* である¹²⁾。 *Vasundharā* を観想した後、阿闍梨が大地に手を触れながら偈頌を唱えるが、その中には、『大日経』所説の「警発地神偈」が含まれる¹³⁾。

さらに、*Vajrāvalī* とほぼ同じ内容の *Vasundharādhivāsanavidhī* がその後に著された Jagaddarpaṇa 著 *Ācāryakriyāsamuccaya* (*ĀKS*, 12-13C.E., Toh 3305)¹⁴⁾ や Kuladatta 著 *Kriyāsamgrapañjikā* (*KS*, 12-13C.E., Toh 2531)¹⁵⁾ にも説かれている。いずれの文献においても観想される大地の女尊 *Vasundharā* (チベット語訳は *saḥi lha mo*) は、*Vam* 所変の一面二臂の黄色の身体で、左手で瓶を持ち、右手で施無畏印を結ぶ¹⁶⁾。

以上のように、*Vasundharā* は大地を保持する「大地の女尊」として扱われている。また、『大日経』や『法界語自在マンダラ儀軌』のような中期密教文献、そして、*Jñānapāda* 流や聖者流のマンダラ儀軌においても大地の女尊としての *Vasundharā* は現れない。つまり *Vajrāvalī* 以降の文献においてはじめて *Vasundharā* は「大地の女尊」とされ、*Prthivī* と同一視されているといえる。

2. Vasudhārā について

Vasudhārā は ‘*vasu*’ と ‘*dhārā*’ から構成される限定複合語であり、財宝の流れを意味する。語源的な解釈によって明らかであるように *Vasudhārā* を *Vasundharā* と同様に「大地の女尊」として理解することはできない。*Vasudhārā* の ‘*dhārā*’¹⁷⁾ は *dhan* (流れる)¹⁸⁾ という動詞語根に由来し、「持する」という解釈には導けないからである。また、*Vasudhārā* はチベット訳の文献でも ‘*nor rgyun ma*’ として、サンスクリット語の ‘*dhārā*’ に対応して ‘*rgyun (pa)*’ (流れる) を用いている。

財宝の女尊としての *Vasudhārā* がいつから仏教パルテオンの中に登場するかは明確ではない。しかし、上述した *ĀKS* の後半部分に、*Vasudhārādhāraṇīpāthavidhī* (*tib. nor rgyun maḥi gzuñs bklag paḥi cho ga*) という章があり、そこに一面六臂の黄色い身体で、遊戯坐に坐している *Vasudhārā* を中尊とするマンダラが説かれている¹⁹⁾。これに先立ち、*Grahamātrkāsvastyayanavidhī* という章の冒頭に、①星宿等による災い・過失を鎮める、②貧困の苦しみを完全に打破する (*dāridrāduḥkhaḥpravināśana*-)、③短命の者たちを長寿にするために、三種のマンダラによって幸運が得られることが説かれている²⁰⁾。それらの三マンダラの中尊はそれぞれ① *Grahamātrkā*, ②

Vasudhārā, ③ Uṣṇīṣavijayā の三女尊である²¹⁾。ĀKSでは、Vasudhārāは貧困から解放し、福德財宝を得る幸運を与える女尊として理解されていることが明らかである。同様に、Vasudhārāは「貧困から解放する」女尊であることが、*Vasudhārādhāraṇī*²²⁾ という陀羅尼の中でも明確に説かれている。この陀羅尼は仏教だけではなくジャイナ教でも流布しているようである。その内容の中核は、後に *Sucandrāvadāna*²³⁾ として Avadāna 文献に分類されている Sucandra 王の物語である。ここでは、釈尊が Sucandra 王に対して「Vasudhārā の陀羅尼を唱えるならば、貧困から解放される」²⁴⁾ 云々と説くのである。

まとめ

以上述べてきたことをまとめると、次の通りとなる。

- ① Vasundharā は密教のマンドラ儀軌では「大地の女尊」として理解され、Pṛthivī 女尊と同一視されている。マンドラ儀軌に関する文献に限って言えば、Vasundharā は「大地を保持する」という性質のみを備えた「大地の女尊」であり、「財宝の女尊」という解釈は見られない。一方、Vasudhārā は語源的な解釈から明らかであるように「財宝の流れ」であり、純粹に福德財宝を司る女尊であり、「大地の女尊」としての性質は含まれていない。
- ② Vasundharā と Vasudhārā はその性質が異なることから、相互に置き換えることはできないであろう。一方で、Vasundharā は大地の女尊であり、農業、穀物とともに金、銀、宝石等の富とも関わりを持ち、大地・財宝を保持するという両方の性質を備えた女尊であるとも解釈されるようになる。ただし、財宝収得という現世利益を求めて行う成就法、陀羅尼読誦等すべてが Vasudhārā のみを対象としていることには注意しておく必要がある。
- ③ Vasundharā という語の起源は古いとされるが、Vasundharā から Vasudhārā へとこの展開の経緯は明確ではなく、その解明は今後の課題となる。

1) 詳しくは島 1987: pp.43-50 及び Bühnemann 1999: pp.306-309 を参照。 2) Jaini

1968: pp.33-34. P. Jaini は Vasudhārā の *Vasudhārādhāraṇī* という陀羅尼の校訂テキストを紹介している。 3) 他の Acc. -m を前に持つ複合語にならって -um を採用する。

Altindische Grammatik II-1, p.208 を参照。

4) 'vasu' には大地と財宝両方の意味が含まれている。Vasundharā の 'vasu' をチベット語に訳す際には、'nor' という財宝を示す言葉が使用されている点から考えて、Vasundharā は「大地の女尊」よりむしろ「財宝の女尊」とみなされていることになる。その一方、本稿の註 12,14-15 で見られるように Vasundharā を 'saḥi lha mo' (大地の女尊) と訳する箇所もある。したがって、後に取り上げる *Vajrāvalī* 等の文献がチベット語に翻訳された時点で、Vasundharā は既に大地・

財宝という両方の性質を備えた女尊として理解されていたと思われるが、ここでは指摘するのみにとどめる。 5) *Suvarṇaprabhāsa* (BST No.8, p.77 及び p.81) のような大乘仏典においても *vasundharā* (*vasumḍharā*) が用いられ、大地として理解されている。 6) 『大日経』大正大蔵経 No.848, p.4, c7-10; Toh494 『中大 -Ka』 Vol.86, p.459, l.21-p.460, l.4. この偈頌は後に成立した *Vimśatīvidhi* はじめ *Vajrāvalī* や *Kṛṣṇayamāritantra* (CIHTS, RBT Series No.9, p.56 及び 89) 等多くのマンダラ儀軌にも用いられている。 7) 森 1997: 100-104 を参照。 *Lalitavistara* が説く「降魔成道」の場面に *Sthāvarā* という名の大地の女尊 (*sthāvarā nāma mahāpṛthivīdevatā*, BST No.1, Vaidya 1985: p.233) が現れる。しかし、パーラ朝 (8-13C.E.) になるとアパラージターとヴァスダーラーと呼ばれる二人の大地の女尊に変貌していく。詳しくは宮治 1993: pp.896-903 を参照。 8) Toh 2589 『中大』 Vol. 33, p.530, ll.3-12。 9) 《om bhūḥ kham iti mantreṇa viyadbhūtām **vasundharām**/ hūḥ lam hūḥ iti vajrātmakṣmām kṛtvā tām adhiṣṭhayet// 148》(「om bhūḥ kham」という真言によって大地を虚空(浄化された空間)となった状態に、〔さらに〕「hūḥ lam hūḥ」という〔真言によって〕金剛を本性とする大地となしてから、それを加持すべきである。)。この偈頌の通し番号は *Dhīh* 42: p.126 に従った。Göttingen 蔵写本 Cod. ms. sansc. 257, 10a3-4 を参照。 Toh1865 『中大』 Vol. 21, p.1044。 10) Toh1871 『中大』 Vol.22, p.223, ll.18-21 (*Rantākaraśānti*); Toh 1873 『中大』 Vol.22, p.493, ll.16-21 (*Vitapāda*)。 11) 田中 2010: pp.588-590, pp.655-656。ここでも「警発地神偈」を用いる。 12) 森 1997: p.101 及び 森 1991: p.3, pp.9-11 を参照。 *VA* pp.37, l.5-38, l.7 (*Vasundharādhivāsanavidhi*); Moriguchi 1989: p.116 (Mf.B31/14, 13b3-14a2)。《tad anu maṇḍalabhūmimadhye niṣadya kṛte gandhamaṇḍale vaṃ bhavām **vasundharām** vibhavyaḥ//》. *tib.* Toh 3140 『中大』 Vol.39, pp.36, ll.17-37, l.21。 13) *VA* 38, ll.3-4; Moriguchi 1989: p.116 (Mf. B31/14, 13b7-14a1)。 14) *ĀKS* p.79, ll.1-6 (*Vasundharādhivāsanavidhi*); Moriguchi 1989: p.10 (Mf.C11/6, 72a1-5)。《maṇḍalabhūm(imadhye) niṣadya madhye gandhamaṇḍalam kṛtavā vaṃ bhavām **vasundharām** vibhavyaḥ... **vasundharādhivāsanavidhiḥ**//》. *tib.* Toh 3305 『中大』 Vol.39, pp.1064, ll.16-1065, ll.11。 *ĀKS* では *VA* と同様に *Vasudhārā* のチベット訳語として、*saḥi lha mo* と *nor ḥdsin ma* の両方を用いている。 15) *KS* pp.134, l.2-135, l.4 (*Vasundharādhivāsanavidhi*); Moriguchi 1989: p.30 (Mf.C11/5, 101b2-102a4)。《tad anu vaṃ bhavām **vasundharām** vibhavyaḥ... tataḥ svāyattām pṛthivī bhaved iti **vasundharādhivāsanavidhiḥ**//》. *tib.* Toh 3140 『中大』 Vol.31, pp.1742, l.11-1743, ll.14-15)。 *KS* では *Vasundharādhivāsanavidhi* を “**nor rgyun ma** lhag par gnas paḥi cho ga” と訳している。すなわち、*Vasundharā* を ‘**nor ḥdsin ma**’ ではなく後述するように *Vasudhārā* の訳語である ‘**nor rgyu ma**’ を使用している。その一方、*vaṃ* 字所変の *Vasundharā* を ‘**saḥi lha mo**’ と区別して訳している。なぜ *Kriyāsamgraha* のチベット語訳にそのような相違が見られるのかは明らかではない。 16) 一方、*Vimalaprabhā* II (CIHTS RBT Series. 12), p.35 (*pṛthivīvisarjana-vidhi*) があり、ここにも *Vasundharā* を観想し土地借用の許可を請願するのであるが、その *Vasundharā* は黄色の身体を持ち、三面六臂の姿をとる。この姿はネパールで流布している福德財宝の *Vasudhārā* と類似する。 17) *vasór dhārā*, *vasordhārā* (財産の流れ) という多量の *ghṛta* を祭火の中に流し入れる儀礼がヴェーダ祭式において確認される。H. G. Ranade 2006 *Illustrated Dictionary of Vedic*

Rituals New Delhi, p.278 を参照. 18) dhanⁱ (走る, 流れる) Mayrhofer *EWA-1* pp. 772-773 及び dhārā Mayrhofer *EWA-1* pp. 788-789 を参照. 19) *ĀKS* pp.436 l.1-436, l.5; Moriguchi 1989: p.10 (Mf.B103/11,320a6-323a). Toh 3305 『中大』 Vol. 39, pp.1435-1439. マンダラおよび Vasudhārā 関連の諸文献については『密教学研究』第 43 号参照. 20) *ĀKS* 427, ll.3-4; Moriguchi 1989: p.10 (Mf.B103/11,315b8-316a2). これに関して田中・吉崎: 215-218 を参照. 21) *ĀKS* pp.427 l.3-441 l.6; Moriguchi 1989: p.10 (Mf.B103/11, 315b8-325a1). 22) 『梵語仏典の研究 IV』: 116-117 参照. 校訂テキストは Jaina 1968: pp.37-45 及び *Dhīḥ* 44: pp.131-147 を参照. 23) Mitra 1882: *Sucandrāvadāna* p.232; Matsunami 1986: *Vasudhārākālpāvadānasūtra* p.127 (No.355, 357). 24) *Dhīḥ* 44: pp.131-132.

〈参考文献及び略語〉

桜井宗信 1996『インド密教儀礼研究』法蔵館; 島岩 1987「仏教に取り入れられたヒンドゥー教神—ヴァスダーラー—」『日本佛教学会年報』52, pp.43-55; 田中・吉崎 1998『ネパール仏教』春秋社; 田中公明 2010『インドにおけるマンダラの成立と展開』春秋社; 松長・奥山・桜井・川嶋共同執筆 1989『梵語仏典の研究 IV 密教経典篇』, 平楽寺書店; 宮治昭 1993「インドの地天の図像とその周辺」『インド密教学研究 上—宮坂宥勝博士古稀記念論文集—』法蔵館; 森雅秀 1997『マンダラの密教儀礼』春秋社; 森雅秀 1991「インド密教における建築儀礼—*Vajrāvalī-nāma-maṇḍalopāyikā* 和訳 (1) —」『名古屋大学文学部研究論集』111, pp. 53-73; **Bhattacharyya**, B. (ed.) 1968. *Sādhnamālā* Vol.1, GOS No.26, Baroda; **Bühnemann**, G. 1999. “Buddhist Deities and Mantras in the Hindu Tantras: I” *IJ* Vol. 42-4, pp.303-334; **Chandra**, L. (reproduced) 1977. *Vajrāvalī Śatapīṭaka Series* Vol. 239, Delhi (VA); **Chandra** (reproduced) 1977. *Kriyāsamuccaya Śatapīṭaka Series* Vol. 237, Delhi (*ĀKS*); **Jaini**, P. S. 1968. “Vasudhārā-dhārāṇī: A Buddhist work in use among the Jainas of Gujarat” *Shri Mahavira Jaina Vidyalyaya Golden Jubilee Volume Part I*, Bombay; **Matsunami**, S. 1986. *A Catalogue of Sanskrit Manuscripts in the Tokyo University Library*, Tokyo; **Mitra**, R. 1882. *The Sanskrit Buddhist Literature of Nepal*, Calcutta; **Moriguchi**, M. 1989. *A Catalogue of the Buddhist Tantric Manuscript in the National Archives of Nepal and Kesar Library*, Tokyo; **Pandeya**, J. Sh. 1994. *Bauddhastrotasamgraha*, Delhi; **Rani**, Sh. (reproduced) 1977. *Kriyasamgraha Śatapīṭaka Series* Vol. 236, Delhi (*KS*); 『中大』 / 『中大 -Ka』 (bKaḥ ḥgyur): 『中華大藏経』中国蔵学出版社出版, 北京.

(本稿は平成 21 年度科学研究補助金 (課題番号 21・09002) による成果の一部である.)

〈キーワード〉 Vasundharā, Vasudhārā, 大地, 財宝, ネパール仏教

(日本学術振興会外国人特別研究員, 博士 (文学))